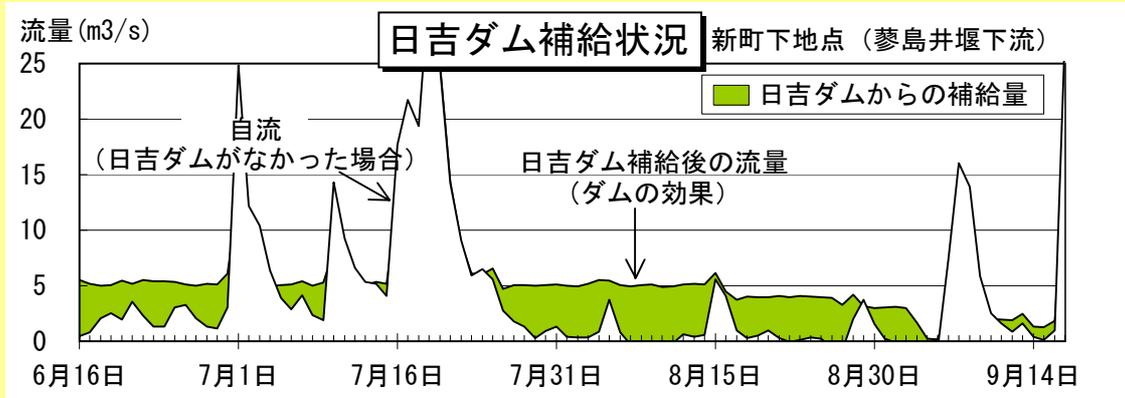


# 日吉ダムの効果

## ～ 潤いのある河川をめざして～

- 桂川は日吉ダムからの補給によって安定した流れになり、農業用水及び水道用水の利用、河川の生態系の保全等が可能になりました。



日吉ダムから補給しない場合は、8月7日～8月11日及び9月1日～9月5日などには、瀬切れ(川の流れが途切れる状況)が生じたものと考えられます。



桂川月読橋より上流を望む(平成14年9月3日)

### ● 日吉ダムからの補給量

8月、9月の少雨に伴う渇水により、桂川への補給量は増大し、日吉ダムの貯水量がなくなる恐れもありましたが、利水者の協力により乗りきることができました。その結果、日吉ダムの貯水容量1,600万m<sup>3</sup>の81%(大阪ドーム約11杯分)が利用されました。



日吉ダム貯水池上流より日吉ダムを望む(平成14年9月2日)



日吉ダム貯水池上流  
日吉町天若付近(平成14年9月3日)

### ● 保津峡の状況



トロッコ保津峡駅とその周辺(平成14年9月4日)

保津川下りは、平成6年には渇水により35日間の運休がありましたが、平成14年には渇水による運休はありませんでした。